

政務活動実施報告書

令和7年10月20日

村上市議会議員 三田 敏秋 様

議員名 長谷川 孝



私は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

用 務 名	「洋上風力と漁業の共生」公開フォーラム
実 施 日 時	令和7年10月17日（金） 午後 2 時 00 分 ～ 午後 4 時 00 分
用 務 先	秋田県（秋田市にぎわい交流館）
参加議員名	※同行議員がある場合記入すること。
全体参加者数	※同行議員がある場合記入すること。 1 名
概要及び所見	※記載欄が不足する場合は別葉に記載すること。 別紙記載のとおり
備 考	



2025年10月17日(金)政務活動報告書
自然エネルギー財団主催 公開フォーラム
洋上風力と漁業の共生を考える 現場の声とこれからの展望

所見

本フォーラムでは、「洋上風力と漁業の共生」をテーマに開催されたが本市と胎内市が進める洋上風力発電計画は、協議会の場で漁業者との一定の協議は進められており、協議会では共生基金などの話し合いの場を実務者会議などを通して進めていくと決定している。

(これらの重要な課題を1年に1回しか開催しない協議会で良いのかとの思いを感じる)

再エネ法では、漁業補償は払わないことから、共生基金は誰のものか？協議会で協議して、合意形成する必要がある。

ブレード(風車)の下には藻が生え優良な漁場となるとのことだが、事業者側の安全を考えると(ブレード落下の事例)操業自粛を求める事例が考えられることから、「魚の通り道」をつくるなど対策が必須。

秋田や銚子沖での第一ステージの三菱商事の撤退から、再公募を求めて漁業者としても国・県に要望している。

安心して事業が完遂できるよう共生策に取り組んでほしいとの地元要望

2000年以降、漁獲量が半減し魚が取れない。事業者も漁業や地域の未来に主体的に向き合い、考える姿勢を持つことが重要

30年後の漁業(漁業者が夢を持てる)

共生のための未来の一步(事業者の中で漁業に取り組む・科学的な根拠)

スペインでは風車養殖 事業者の漁業を知る

若者が漁業を継ぐための漁業共生策

共生には、意思決定・透明性・科学的根拠が重要となる

共生に向けた事業・情報の横断的な取組み

洋上風力における共生とは、新しい価値を見出す納得感(基金の活用)

千葉県・秋田県では漁業者共々声を上げて、三菱商事撤退の対応を8月27日国に要望、完遂できる環境整備による再公募を求めた

秋田県では、事業者撤退による再公募、浮体式の実施なども開始、10月15日(水)～17日(金)には秋田市において、一般社団法人日本風力発電協会主催、秋田県・秋田市・経済産業省・国土交通省・環境省ノルウェー大使館・JETRO・自然エネルギー財団・新エネルギー財団

日本風力エネルギー学会等の後援による世界洋上風力サミットが開催されている。

本市の取組みとしての考察

岩船港のメンテナンス機能を生かす

ナセルの整備点検作業の人材育成

2027年統廃合による岩船中学校の利活用

約3万人不足するといわれる保守点検人材の大学・専門学校の誘致

現在、国内で立ち上がっている人材確保のための学校設置の情報等幅広い考察が必要